2022 年 12 月 20 日

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
２０２２年度教育課程編成委員会報告書

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
教育課程編成委員会委員長
今村雅彦

2022 年度、教育課程編成委員会を実施しましたので、下記の通り報告します。

１　委 員 総 数　〈１２名〉

横浜国立大学教育学部教授		園田　菜摘
横浜国立大学教育学部教授		藤井　佳世
学校法人新栄学園認定こども園金沢白百合幼稚園園長		鈴木　敦
学校法人清正学園まきが原幼稚園園長		清水　満正
聖ヶ丘教育福祉専門学校附属育和幼稚園園長		森谷　恭子
八幡橋幼稚園園長		秋山　菜穂美
聖ヶ丘教育福祉専門学校	校長	今村　雅彦
〃	副校長	渡辺　潤一
〃	事務長	渡邊　慶信
〃	教務部長	黒石　憲洋
〃	実習指導部長	蠣﨑　尚美
〃	就職指導部長	亀田　良克

陪　席　者　　〈2 名〉

聖ヶ丘教育福祉専門学校	古谷　淳	就職指導部員
〃	竹前聡子	教務部主任

２　教育課程編成委員会開催日時
第 1 回　2022 年 9 月 7 日（水）16 時～17 時 30 分
第 2 回　2022 年 9 月 28 日（水）16 時～17 時 30 分
〈開催場所〉　Zoom によるオンライン会議

3　委員会次第

第１回委員会次第

（１）学校長挨拶

（２）委員紹介

（３）２０２１年度教育課程編成委員会報告書の対応状況

（４）質疑応答

（５）次回議事内容及び日程等

（６）その他

第２回委員会次第

（１）２０２２年度教育課程改善報告に係る２０２３年度教育課程編成についての提言

（２）質疑応答

（３）その他

（４）学校長挨拶

4　議事報告

2022 年度教育課程編成委員回改善報告

（別添資料参照）

（別添資料）

2022 年 12 月 20 日

2022 年度教育課程編成委員会改善報告

学校法人聖ヶ丘学園
聖ヶ丘教育福祉専門学校
教育課程編成委員会委員長
今村雅彦

項目	現在の状況報告	委員からの提言	今後の対応措置
① ICT 機器の活用	● 求人情報をデータ化することで、学生が任意の時間で求人情報にアクセスできるようになった。	● 養成校と現場との連携を強化していくためのツールとして ICT をより活用するべきではないか。 ● オンラインとオフラインの使い分けについて検討してはどうか。	● 情報交換にあたり、システムの構築を進めていく予定。 ● オンラインによる匿名性により授業が活発になっている側面もある。今後も積極的に取り入れたい。
② 学生のコミュニケーション能力について	● 今年度は、コロナ禍以前と変わらない全面対面の環境設定にて授業を行っている。	●	● 学生への指導に於いて報告・連絡・相談をすることの大切さを伝えていく。
③ 学校施設の活用に関して	● 昨年度は 10 回、今年度は 13 回カウンセリングを開設している。 ● 図書室開放の充実に取り組んでいる。	● 学業や就職への不安といった学校側で不安を解消するための仕組みはあるか。 ● 実習等で生じる相談は別途行っているのか。 ● 学生にとって一人で静かに学習できる安心感が学習へ向かう意欲に繋がるのではないか。	● 細かい相談内容はプライバシー保護の観点から教職員には伝えないが、管理職は把握しており、必要に応じて担任に情報を伝えていく。 ● カウンセリングの約 9 割以上が学生の家庭に関する相談である。学校として状況を把握できるようにしていく。 ● 助手勤務は、就職指導

			部が、実習は実習指導部が学生個々の状況に合わせ対応・指導をしていく。
④ 文章力の低い学生への対応	● 実習にあたり、日誌が書けない学生が増えてきている。	● 高校までとは異なる高等教育についての意識付けを行っていく必要があるのではないか。 ● 日誌は状況の記録だけではなく、次につなげていくための記述であることを意識させる必要があるのではないか。 ● 保育現場でも文章力の低下は感じており、自園では、5W1H に絞り報告書の作成を行っている。 ● 学生自身が子どもたちと関わってどのように感じたかを振り返る視点を理解してもらう必要があるのではないか。 ● 実習中に写真を撮影し、撮影した場面をもとに記録を書いていくのはどうか。	● 実習について文章力の低い学生への対応について順次、実践を検討していく。
⑤ 修学意欲の低い学生への対応について	● 保証人の意向により入学を決めた学生や、実習を経て学校生活の継続を諦めてしまう学生がいる。	● 入学前の段階（入試等）で、生徒のモチベーションを確認する必要がある。 ● 高校生の段階から、保育現場の職員から話を聞く機会を設ける	● 修学意欲の低い学生への対応について順次、実践を検討していく。

		のはどうか。 ● 自分の意志で入学していない学生については、その学生自身が自己分析をし、教職員がそれを支えていくのが良いのではないか。	
⑥ リカレント教育について	● 学びは卒業した後も続いていく。どのようなリカレント教育が必要と考えるか。 ● どのような資質を備えて卒業してもらいたいか。	● 卒業後、4～5 年経った卒業生を呼び、インタビュー調査を行うのはどうか。就職先の管理職に卒業生の様子をヒアリングするのはどうか。 ● 卒業後の学生の追跡調査を行っていく必要があるように感じる。 ● 横浜市の教員のキャリアステージにおける人材育成指標を参照し、学校としての指標を作成しても良いのではないか。 ● 基本的な挨拶を身につけて卒業してほしい。 ● 子どもの気持ちを感じる気持ちを大切にしてもらいたい。 ● 学生自ら必要なことを考えて行動できる能動的な力を身に付けてほしい。	● リカレント教育等への対応について順次、実践を検討していく。
⑦ その他	●	●	●

以上